

**指導事例 1****「現代社会」の少人数授業における指導と評価****1 指導計画・評価計画**

(1)対象生徒 2年生6名

(2)単元 「南北問題」

(3)単元の目標

南北問題の現状や解決への取組について理解させる。

我が国を含む先進国の経済協力の在り方について考えさせる。

南北問題解決のために、日本人としてどのように生きるかを考えさせる。

(4)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
南北問題に関心をもち、日本などの先進国が果たすべき役割や日本人の生き方について考えようとしている。	南北問題の背景や現状についての知識をもとに、日本などの先進国が果たすべき役割や日本人としての生き方について考えている。	南北問題及び国際協力の現状や課題について、必要な資料を収集し、適切に選択して活用している。	南北問題の現状や解決への取組について理解し、その知識を身に付けている。

(5)単元の指導の流れ

南北問題について把握する。

日本やアジアNIE Sの成功事例を学び、発展途上国が豊かになるための条件を考える。

その条件を整備するために、先進国には何ができるかを考える。

個人（日本人）として何ができるか、何をしようとするべきかを考える。

段階では、まず診断的評価を行い、南北問題についての生徒の知識や理解度、興味・関心の程度などを把握する。続いて教師の講義により、南北問題について学ばせる。さらに、班別に具体的な発展途上国を選ばせ、現状を追究させる。

段階では、南北問題の解決策を探らせる。その際、何の手がかりもないままに生徒に考えさせると、単なる思いつきにとどまってしまう可能性が高いため、かつて発展途上国だった国が経済発展したり、先進国になったりした過程がわかる事例を示し、発展途上国が豊かになるための条件を考えるヒントにさせる。

段階では、で考えた条件を整備するために、先進国ができること、なすべきことを考えさせる。

段階では、今までに学んだことをもとに、個人（日本人）として何ができるか、あるいは何をすべきかを考えさせる。

(6)単元の指導計画・評価計画（4時間）

時	学 習 活 動 ( は使用教材等)	指導上の留意点	評 価 計 画 ( は対応する評価表)
1	南北問題に関するアンケートに回答する。( 診断的評価) アンケート 南北問題に関係のある資料を見る。 飢餓の写真	・ 飢餓の写真を見せ、南北問題の一端に触れさせる。	【関心・意欲・態度】 ・ 南北問題に関心をもっている。 【知識・理解】 ・ 「南北問題」という言葉の意味を知っている。 評価表 1 の 1
	人口爆発、モノカルチャー経済、累積債務など、南北問題についての基本的な事項を学ぶ。 ・ 教師の講義を聞き、ワークシート 1 に基本事項をまとめる。 ワークシート 1、教科書、資料 1	・ 先進国による取組の現状と課題についても触れる。 ・ 「資料 1」は各種資料集及びインターネットから教師が作成。	【知識・理解】 ・ 南北問題の現状や解決への取組について理解し、その知識を身に付けている。 評価表 1 の 2
	班編成をし、役割分担を決定する。 3 つの発展途上国から 1 か国を選択する。 〔 1 班 = ベトナム 2 班 = バングラデシュ 3 班 = タンザニア を選択 〕 班ごとに選択した国の現状をインターネットを利用して調べ、ワークシート 2 にまとめる。 ワークシート 2	・ 3 班編成とする。 ( 2 名 × 3 班 ) ・ インターネットを利用する際の注意点を指導する。	【資料活用の技能・表現】 ・ 必要な資料を適切に収集し、選択している。 評価表 2 の 1
2	調査活動( 前時の続き ) 班ごとに、発展途上国が豊かになるための条件を考察する。 ・ 日本及びアジア N I E S が発展した過程を学び、考察の参考にする。 資料 2、ワークシート 3	・ 日本及びアジア N I E S が発展した過程を記した「資料 2」を配布する。	【思考・判断】 ・ 発展途上国が豊かになるための条件を考えている。 評価表 2 の 2
3	班ごとに、先進国の果たすべき役割について考える。 ワークシート 4	・ まとめ方の指導を適宜行う。	【思考・判断】 ・ 先進国が果たすべき役割についての意見をもっている。 評価表 3

3	発表用資料を作成する。 ・各国の現状、発展途上国が豊かになるための条件、先進国の果たすべき役割、先進国の配慮すべき点を盛り込む。 発表内容、発表手順を決定する。	・各班の進捗状況を把握し、資料や発表に向けて具体的な助言を行う。	<b>【資料活用の技能・表現】</b> ・自分たちの考えたことを適切にまとめている。 評価表 3
4	班ごとに発表する。(各班10分) ・各国の現状、発展途上国が豊かになるための条件、先進国の果たすべき役割、先進国の配慮すべき点など	・質問等を促す。	<b>【資料活用の技能・表現】</b> ・的確でわかりやすい発表をしている。 <b>【思考・判断】</b> ・他班の発表を聞いて、南北問題について多面的・多角的に考察している。また、疑問点を見いだして質問している。 評価表 4 の 1
	相互評価票の記入を行う。 相互評価票	・発表の前に配付して説明を加えておく。	
	個人(日本人)として何ができるか、何をすべきかを考え、各自発表する。 ワークシート 4	・個人ごとに考えさせ、指名して発表させる。	<b>【思考・判断】</b> ・個人としての生き方についての意見をもっている。 評価表 4 の 2
	自己評価票の記入を行う。 自己評価票	・自己評価票を配付し、説明を加える。	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・先進国が果たすべき役割と日本人としての生き方について考えようとしている。 評価表 4 の 3

#### (7) 教師による評価

この指導事例では、生徒が6名であるという少人数授業の利点を生かし、A(十分満足できる)、B(おおむね満足できる)、C(努力を要する)の3段階の判断基準を設定し、ワークシートの記述や授業中の発言を中心に生徒一人一人の学習状況の把握に努めた。なお、この評価は、生徒一人一人の学習状況(到達度)を把握し指導に生かすことを主たる目的として行ったものであり、学業成績に直接結びつけるものではない。

教師用の評価表(「評価表1～評価表4」)を各時間ごとに作成し、判断基準をもとに評価を行った。本稿では、これらの評価表と授業担当者が実際に評価した結果を、授業の展開順に示す。なお、評価表は説明のために「1の1」と「1の2」などと分割して掲載した(評価表3を除く)。



評価表 1の1 (次の評価表以降、「生徒」の文字は省略)							
観 点	評 価 規 準	生 徒 1	生 徒 2	生 徒 3	生 徒 4	生 徒 5	生 徒 6
知・理	「南北問題」という言葉の意味を知っている。	C	C	C	C	C	C
関意態	南北問題に興味・関心をもっている。	B	B	C	C	B	B
評価の観点		判 断 基 準					
知識・理解	A	Q3で を選択し、Q4で適切な語句を答える。					
	B	Q3で を選択。					
関心・意欲・態度	A	Q5で を選択。					
	B	Q5で を選択。					

Bに満たないものがCである。(以下同じ)

### 3 南北問題の現状についての学習と評価 (第1時間目)

#### (1) ワークシート1

ワークシート1	
南北問題とは	
南北問題の現状	
先進国による取組	
南北問題について簡潔に説明しなさい。	

教科書 及び 資料1 の概要 [本稿ではキーワードのみ示す]			
・南北問題とは何か	・モノカルチャー経済	・植民地支配	・累積債務問題
・南南問題	・人口爆発	・食糧問題	・途上国の自助努力
・援助と国際協力	・日本の国際貢献	・ODA	・NGO

はじめに、「ワークシート1」の ~ について、教師による講義をもとに、教科書と資料1を使用してまとめさせた。資料1は教科書を補足する内容となっている。(上記 教科書及び 資料1 の概要」参照)

次に、教師がキーワードを示し、 については、キーワードを用いて、自分の言葉で説明させた。教科書や資料1の丸写しではなく、きちんと理解した上でまとめさせることを意図した。なお、キーワードは、上記「教科書 及び 資料1 の概要」にあげたものである。

#### (2) 教師による評価

評価表1の2							
観 点	評 価 規 準	1	2	3	4	5	6
知・理	南北問題の現状や解決への取組について理解し、その知識を身に付けている。	B	B	B	A	A	A
評価の観点		判 断 基 準					
知識・理解	A	「ワークシート1」 で、南北問題の現状や解決への取組について、キーワードを二つ以上用いて正しい説明がなされている。					
	B	「ワークシート1」 で、南北問題の現状や解決への取組について、キーワードを一つ用いて説明を試みている。					

#### 4 具体的な国を取り上げて現状を追究（第1・2時間目）

##### (1) ワークシート2

第1時間目から第2時間目にかけて、班ごとに選択した発展途上国の現状について、インターネットを利用して調べさせ、ワークシート2まとめさせた。

ワークシート2	
調査対象国	
国の位置等	
歴史的経緯	
政治・経済の情勢	
日本の援助動向 (実績・計画)	
他の援助国・国際 機関の援助動向	
問題点・課題	
その他	

##### (2) 教師による評価

評価表2の1							
観 点	評 価 規 準	1	2	3	4	5	6
技・表	必要な資料を適切に収集し、選択している。	B	C	A	A	B	B
評価の観点	判 断 基 準						
資料活用の技能・表現	A	情報を適切に収集・選択・整理することができる。					
	B	情報を適切に収集することができる。					

#### 5 南北問題解決策の考察（第2・3時間目）

##### (1) 考察のさせ方

南北問題の解決策を考察させる際に、何の手がかりもないままに生徒に考えさせると、単なる思いつきにとどまってしまう可能性が高い。

複数の「現代社会」の教科書の記述内容を比較すると、明治維新後の日本の歴史から考えさせたり、アジアNIE Sの発展過程から考えさせたりと、教科書ごとに工夫されていることがわかる。

そこで、複数の教科書の内容を組み合わせた 資料2 を作成して生徒に提示し、考察の手がかりとさせた。具体的には、まず 「明治維新後の日本が発展途上国から脱却して中進国となるまでの過程」を、次いで 「韓国などのアジアNIE Sが工業国として成長した過程」を学習させた。さらに、この2つの学習を踏まえて、「どのような政治的・経済的・社会的な条件が揃えば、発展する可能性が出てくるのか」を考えさせた。

## 資料2 の概要

### 日本が中進国となるまでの過程

明治維新後、文明開化と富国強兵が国の方針となり、身分制度廃止・徴兵制・初等義務教育制により国民としての一体感を形成。憲法制定・議会開設による国民の政治参加。欧米帝国主義列強の植民地支配から逃れ、近代化を達成。

### アジアN I E S が工業国として成長した過程

一次産品輸出国からの脱却と工業化を図る。初めは輸入代替工業化政策を試みるが、その多くは失敗。次に、輸出指向型工業化を目指し、労働コストの低さを利用して、労働集約的な工業製品に特化。多国籍企業と結合して世界市場で販売し、経済成長を達成。

「発展途上国が豊かになるための条件」については、法律・教育制度・金融制度などの整備、役人の腐敗や汚職の防止などにより、外国からの技術や資金などの援助を有効に活用し、自国の力で工業化を達成して発展する力をつける、といったことが必要といわれる。ここでは、(日本) (アジアN I E S)の学習成果を生かした考察結果が得られれば十分であると考えた。

## (2)ワークシート3

日本の発展過程	
アジアN I E S の発展過程	
発展途上国が 豊かになるため の条件とは	

## (3)教師による評価

観 点	評 価 規 準	1	2	3	4	5	6
思・判	発展途上国が豊かになるための条件を考えている。	B	B	A	A	B	B
評価の観点	判 断 基 準						
思考・判断	A	「ワークシート3」及び の学習成果を生かして、発展途上国が豊かになるための条件を考えている。					
	B	「ワークシート3」または のいずれかを参考にして、発展途上国が豊かになるための条件を考えている。					

## (4)ワークシート4

先進国の果たすべき役割	
個人として何ができるか？	[ 評価場面は第4時間目「評価表4の2」 ]
「南北問題」の単元を学習をして、気づいたこと、感想などを簡潔に記入しなさい。	

前時までの学習内容を踏まえて先進国の果たすべき役割を考えさせた。発展的な内容として、「先進国の配慮すべき点」についても考えるよう促した。生徒の状況を見ながら、教師から「発展途上国が自らの力で発展しようとする意欲を支えることが大切である」という内容の説明を加えた。

(5) 教師による評価

評価表 3								
観 点	評 価 規 準		1	2	3	4	5	6
思・判	先進国が果たすべき役割についての意見をもっている。		B	C	B	B	B	B
技・表	自分たちの考えたことを適切にまとめている。		B	B	B	B	B	B
評価の観点		判 断 基 準						
思考・判断	A	先進国ができること、なすべきことを考え、先進国が配慮すべき点も考えている。						
	B	先進国ができること、なすべきことを考えている。						
資料活用の 技能・表現	A	自分たちの考えたことを、「ワークシート4」に他の班にわかりやすく説明できる表現でまとめている。						
	B	自分たちの考えたことを、「ワークシート4」にまとめている。						

6 追究した課題の発表と生徒の相互評価（第4時間目：研究授業）

(1) 発表

各国の現状、発展途上国が豊かになるための条件、先進国の果たすべき役割、先進国の配慮すべき点など、各班が追究してきた課題について、1班（ベトナム）、2班（バングラデシュ）、3班（タンザニア）の順で発表させた。

各班とも2名が分担して発表を行った。内容的な整合性は見られたが、話し方が単調であったことや、説明用のレジメが間に合わなかったことなどから、重要ポイントがわかりにくい発表もあった。

発表後には、他班の生徒に対し、疑問点やわかりにくかった点などを質問するように促した。

(2) 教師による評価

評価表 4 の 1								
観 点	評 価 規 準		1	2	3	4	5	6
技・表	的確でわかりやすい発表をしている。		B	C	B	B	B	C
思・判	他班の発表を聞いて、南北問題について多面的・多角的に考察している。また、疑問点を見いだして質問している。		C	C	B	C	A	C
評価の観点		判 断 基 準						
資料活用の 技能・表現	A	自分たちの調べたことや考えたことを発表し、レジメを用意するなどして他の班にわかりやすく説明している。						
	B	自分たちの調べたことや考えたことを発表している。						
思考・判断	A	他班の発表を聞いて、自分たちが調べた国と比較するなどして、疑問点を質問している。あるいは、質問に的確に答えている。						
	B	他班の発表を聞いて疑問点を質問している。あるいは、質問に答えている。						



(3)生徒の相互評価

生徒の相互評価を実施したねらいは、以下の通りである。

- ・他班の発表を真剣に聞こうとする授業態度を醸成する。
- ・他班の発表態度や発表内容から、自分の学習過程を振り返って学習の改善に生かす姿勢を身に付けさせる。
- ・自班と他班の調査内容を比較して、その共通点や相違点を確認することを通し、多面的・多角的に考察する力を育成する。

(4)相互評価票

生徒の負担を考慮し、評価項目数が多くなりすぎないように精選した。相互評価票には、「担当教師から」という欄を設け、「どうしたらよいか」「何が不足しているか」といったアドバイスを書いて生徒に戻した。生徒の良い点を認めるとともに、達成度の不十分な生徒の指導にも生かすなど、個々の生徒に対してねらいを伝え「個に応じた指導」を図った。

なお、評価項目のうち初めの二つは、真面目に授業を受ける態度を生徒に促すことをねらいとして入れてある。

また、右側に、評価項目と評価の4観点とのかかわりを 印で示した。

<b>現代社会 相互評価票（生徒用）</b>					評価の4観点 とのかかわり				
評 価 項 目		評 価			担当 教師 から	関 意 態	思 判	技 表	知 理
		1 班	2 班	3 班					
班内での役割分担を積極的に行ったか？		(班内のメンバ							
班内で協力して取り組んだか？		ーについて)							
発表の方法や資料の選択は適切であったか？									
発表された国の現状がよくわかったか？									
しっかりとした論拠に基づいた内容だと考えられるか？									
自分たちの発表にはない考え方が見られたか？									
質問を受け、疑問点に適切に回答することができたか？									
評価について：A（十分満足である） B（おおむね満足である） C（努力・改善の必要がある）									
他班の発表に対する感想・意見を記入しなさい。									
班									
班									

生徒が実際に記入した相互評価票を見ると、記入方法がよくわかっていなかった生徒もいた。生徒が理解できるよう十分に説明する必要がある。また、生徒にとって、相互評価を行うのは初めてのことであり、発表内容に耳を傾けながら評価することは難しかった様子であるが、おおむね真面目に相互評価に取り組んでいた。

「他班の発表に対する感想・意見」欄に記された事項は、以下の通りである。

1班...・細かいところまで調べてあり分かりやすかった。

- ・とても細かいところまで調べてあった。聞きやすかったし、分かりやすかった。
- ・話す態度に改善する余地がある。

2班...・歴史が分かりにくかったが、問題点などは良くまとめてあり分かりやすかった。

- ・特に問題点が理解しやすかった。自分が知らないことまでよく分かった。
- ・発表自体はすごく良かった。言葉に詰まらないように発表しましょう。

3班...・バングラデシュの色々なことが分かった。資料を作り、分かりやすかった。

- ・わかりやすい調べ方だった。言葉遣いも良く、内容も良かった。
- ・最初声が小さく分かりにくかったが、途中から聞き取りやすくなった。
- ・声が小さく聞こえない部分があった。

## 7 個人（日本人）として何ができるかを考察（第4時間目：研究授業）

### (1) 考察・発表

今までに学んだことをもとに、個人（日本人）として何ができるか、あるいは何をすべきかを考えさせ、指名して発表させた。

生徒の発表内容は、以下の通りである。

生徒1：見かけたら募金をしたい。

生徒2：コンビニのおつりを募金する。

生徒3：ボランティア。募金。モノ（食べ物）を残さない。

生徒4：ボランティアをしてみたいと思った。募金をする。

生徒5：国家規模の援助と同じことではなく、テレカや中古衣料を送るなど、身近にできることをしたい。

生徒6：できることを探してみる。

この類の身近な行動としては、他には「書き損じハガキの回収」「未使用プリペイドカードの回収」「フェアトレード」などが考えられる。

### (2) 教師による評価

評価表4の2						
観 点	評 価 規 準					
思・判	個人（日本人）としての生き方についての意見をもっている。					B A B B A C
評価の観点	判 断 基 準					
思考・判断	A	授業で学んだことをもとに、個人としてできることを自分の言葉で具体的に説明できる。				
	B	個人として何ができるかを考えている。				

## 8 単元を振り返っての自己評価

### (1) 生徒の自己評価

単元全体の学習状況を振り返っての自己評価をさせた。評価は、A（十分満足である）、B（おおむね満足である）、C（努力・改善の必要がある）の3段階とし、評価項目数が多くなりすぎないようにした。また、この単元で学んだこと、考えたこと、反省点などについても自

由に記述させた。

以下に、6名の生徒による自己評価の結果とともに、評価項目と評価の4観点とのかかわりについて印で示す。

評価項目	生徒1	生徒2	生徒3	生徒4	生徒5	生徒6	関意態	思・判	技・表	知・理
南北問題の現状や解決への取組を理解することができたか？	A	B	A	B	B	A				
班内の役割分担や活動を積極的に、また協力しながら行ったか？	B	A	B	B	B	B				
情報を適切に収集し選択することができたか？	B	A	B	C	B	B				
発展途上国が豊かになるための条件を考えることができたか？	A	B	A	B	A	B				
自分たちが考えたことをまとめ、分かりやすく発表することができたか？	A	A	C	C	B	C				
他の班の発表をメモを取りながら真剣に聞いたか？	B	B	B	C	A	B				
他班の発表を聞いて、疑問点や質問を考え、発問することができたか？	B	B	C	C	B	C				
この単元を学習して、先進国の役割や日本人の生き方について考えるようになったか？	B	B	B	B	B	B				

この単元で学んだこと、考えたこと、反省点として記された事項は以下の通りである。

生徒1：自分は南北問題を知りませんでした。南北問題を調べているうちに色々な国が食糧不足であることが分かった。自分も何か役に立つことがしたい。

生徒2：貧富の差がありすぎるし、教育を受けられないくらい貧しい国もある。

生徒3：北と南では経済格差がありすぎる。北の人たちは援助活動をもっと頑張るべきだ。

生徒4：北と南では発展の違いで先進国と発展途上国が生まれてしまった。日本人として何が出来るかを考え、自分たちのできる中で国際協力をしていきたい。

生徒5：「南北問題」という言葉も知らなかったが、勉強する中で色々分かるようになってきた。

生徒6：食糧問題や教育を受けられない国があることを、勉強の中で初めて知った。授業で調べなければ一生知らなかったと思う。

(2)自己評価の結果から

自己評価の結果と教師による評価の結果にはかなりの違いがあり、教師から見ると真面目に取り組んでいると思われる生徒が厳しい自己評価をしたり、その逆のケースがあったりした。

(2)教師による評価

評価表4の3						
観 点	評 価 規 準					
	1	2	3	4	5	6
関意態	先進国が果たすべき役割と日本人の生き方について考えようとしている。					
	A	B	B	A	B	B
評価の観点	判 断 基 準					
関心・意欲・態度	A	南北問題に関心を持ち、先進国が果たすべき役割と日本人の生き方について考えている。				
	B	南北問題に関心を持ち、先進国が果たすべき役割あるいは日本人の生き方のどちらかについて考えている。				

(3) 「関心・意欲・態度」の変容について

「関心・意欲・態度」の、単元開始時と単元終了時のそれぞれにおける評価結果を再掲する。

「生徒4」に見られるように、単元開始時には興味を感じていなかったが、単元終了時には積極的に南北問題について考察するようになった生徒もあり、「関心・意欲・態度」についての単元の目標を達成できたと考えられる。

評価場面	評価規準	1	2	3	4	5	6
単元開始時	南北問題に興味・関心をもっている。	B	B	C	C	B	B
単元終了時	先進国が果たすべき役割と日本人の生き方について考えようとしている。	A	B	B	A	B	B

## 9 単元のまとめとしての課題

### (1) 考え方

第4時間目に、生徒が「個人(日本人)として何ができるか、何をすべきか」として考えたことは、募金活動が主であった。

生徒の「関心・意欲・態度」が、単元開始時と単元終了時で変化していることから考えると、多くの人に南北問題を知ってもらう(関心を持ってもらう)ことも、生徒が身近にできる有効な行動であろう。南北問題の存在を知ることから始まり、自分にできる身近な行動をしていく中から、NGOや海外青年協力隊で活躍する人材が出てくる可能性もある。

そこで、当初の指導計画にはなかったが、多くの人に南北問題を知ってもらうため、単元の学習を通して考えたことを、ポスターという形で表現させることにした。このためには、南北問題の現状や解決への取組を理解し、課題追究や考察など単元を通して、様々な学習活動に取り組んできたことによって身に付けてきた総合的な力が必要になる。従って、単元のまとめとして、「知識・理解」にとどまらない評価ができると考えた。

ポスターは人目を引くことが目的ではなく、南北問題の内容にかかわることを正しく伝える必要があるので、ポスターには南北問題に関するキーワードを入れたり、キーワードの意味を示したりすることが適切であると考えた。

### 課 題

南北問題をより多くの人に知ってもらうために、発展途上国の現状や先進国の人々の取組について表現したポスターを作成しなさい。

その際、ポスターの内容に関するキーワードを1つ以上入れること。また、何を表現したのか、作成の意図も記すこと。

ポスターは鉛筆書きで結構です。

なお、右の絵はNGOのロゴマークです。参考として掲載しましたが、あくまで参考なので、このマークを真似ることがないようにすること。



(4)判断基準

A	キーワードが入っていて、キーワード、図の内容、作成の意図に整合性があり、図として完成している。
B	キーワードが入っていて、図の内容と作成の意図に整合性がある。

(5)解答例

実際に生徒が作成した図の例を示す。



「パンをみんなで奪い合っている。それぐらい食糧が足りないことを訴えたい。」

(生徒5：評価A)



「先進国と途上国の人々が一緒に協力して南北問題の解決に取り組みましょうという意味。」

(生徒3：評価A)

10 成果と課題

(1)個に応じた指導

診断的評価により、生徒の「南北問題」という言葉の理解度を把握することができ、授業を進めるに当たっては、中学校までの学習内容も含めて丁寧に指導する必要があることがわかった。

提出させたワークシートには、学習に対する助言を書き添えて返却した。また、相互評価票と自己評価票にも、「担当教師から」という欄を設け、助言を書き添えて返却した。こうした指導の繰り返しは、評価がC（努力を要する）であった生徒への補充的指導としても大いに成果があり、他の生徒も、第1時間目から第4時間目へと進むに従って、自分の考えをまとめる力が次第に向上した。

このように、生徒一人一人の学習状況を把握し、評価しながら授業を進めることができ、評価を授業の改善に生かすことができた程度できたと考える。

(2)「関心・意欲・態度」の変容

診断的評価の時点で、「南北問題」という言葉を知らない状態では、興味・関心が低いのは当然である。まずは南北問題という言葉の意味を知り、その悲惨さの一面に触れることで「何でこんなひどい状態だろう？」などの疑問が生じ、「もっと知りたい」と、授業を通して学ぼうとする意欲が高まることにつながると考えられる。そして、様々な学習活動を通じて、南北

問題を深く知り、解決の方向を考察することにより、南北問題への「関心・意欲・態度」が向上していったものとする。

この単元の終了後、校内の国際理解教育として、ラオスにおけるNGO活動に関する講演があった。その際、このクラスの生徒達が周囲の友人達とNGOの活動などについて話し合ったり、説明したりしている様子が見られた。普段、生徒が授業の内容に関する話題を授業以外の場面で取り上げることは稀であることからすると、この単元を学習した結果、国際社会に目を向け、どのように貢献できるか、どのように生きるかを考える態度が芽生えてきたことを感じた。

### (3) 生徒の課題追究学習（発表）

生徒は、発表に向けて、班内で非常に良く話し合い、まとめの作業を行っていた。しかし、作業時間不足のために発表用資料（配布用レジュメ）の作成が間に合わなかった班もあり、他班の生徒は資料なしで発表を聞くことになってしまった。さらに、発表に不慣れであったことなども加わり、ややわかりにくい発表となってしまう、他班が調べた内容について理解を深めるまでには至らなかった。

生徒の実態を十分考慮して時間配分を行うことと、発表用資料を作成することを通じて発表者自身の理解を深めさせることが必要であると感じた。

### (4) 今後の課題

単元の評価規準を設定し、評価計画を組み立て、授業中に評価することは、予想した以上に大変なことであった。特に、各評価場面における判断基準の設定と、その評価方法については、まだまだ改善の余地がある。試みとして、研究授業の際に、授業者以外の研究協力員も観察による評価を実施したが、その評価結果には、ややバラツキが見られた。PDCAサイクルに基づく実践を繰り返しながら、評価の技法を向上させ、評価の客観性・信頼性を高めていく必要がある。